店頭から「こんにちは」

第142回

「まな板の上の鯉」ではなくなった患者側 ていねいな手術をリクエスト

ヤケドをしたお客さまの購入したおクスリが、「大変よく効いた」と。何年経っても感謝しておられ、実はその娘さんが、今度は来られました。

手術の相談を受ける

最近、背中に、できものができたとか。医者に診せると、「毛穴が詰まっただけだから」と軽くいわれてしまったといいます。

とはいえ、その後、だんだんと大きく黒くなって、ある日、タオルで背中を洗っていると、ポロリと豆粒のようなものがとれたのだとか。

そこで、「消毒しないと大変だ」ということになり、急いで来局されたのです。

「皮膚の薄皮が張り、血が出ないようになってポロリと落ちたんだから、何も心配はいりません」と、お話ししました。

しばらくして今度は、「歯ぐきの治療中で、手術をしなければならない」とのことで来局を。

ところが、「主治医が診察も手荒く、手術して欲しくない。どうしたらいいですか」と来られたのです。

そこで、「口腔外科なら、私も入院手術したことがあり、私の執刀医の先生がとてもていねいで、上手だったから、お勧めです」と。

「では、どのようにお話ししたらいいのでしょう？　そんなことを伝えたら、主治医が怒って、もう来なくていいといわれたら困るし」と心配そうなお顔です。

無事満足感を…

私は、伝えました。「では、知り合いの医療従事者が、K先生に手術してもらって上手くいったというので、K先生に1度、診てもらいたいと、やんわりいってみては？」

何日かして、来られました。

「教えていただいたように、お話ししたら、“いいですよ。では来週、私も交え、診察していただきましょう”と、予約を入れてもらえたのです」と。

そうして、あらためて報告に来られました。

「K先生に手術していただいたのですが、とてもていねいで、上手でしたね。

女性の助手に、炎症を起こしていた歯ぐきの縫合後、“癒着を防ぐうまい方法はないかね？”と聴いておられました。

助手の方は、“K先生ほどの人物が、私にそうしたことを聴かれるなんて”と謙遜していたのが印象的でしたね。

ちなみに、K先生って、そんなに偉い先生だったのですか？」

「はい、口腔がんのスペシャリストで、大学病院に迎え入れられたそうですよ」と私。

何年か前までは、患者側は医師に対して、何もいえず、まな板の上の鯉状態だったことを思えば、「ずいぶんと患者のことを考えてくれるようになりましたね」と感謝していました。

宮川薬局（宮城県仙台市）代表
薬学博士・薬剤師
みやがわとし じ
宮川季士先生

プロフィール

1976（昭和51）年、東北薬科大学（現・東北医科薬科大学）卒業。'78（同53）年、同大学大学院修士課程修了。'87（同62）年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「からだを動かし、元気になりましょう」